

放送大学教養学部自然と環境コース 加藤研究室

この情報の作成日 2016年5月20日

受け入れ可能学生 修士、博士（卒業研究も可能ですが、大学院生に比べて制約が多いです）

連絡先 メールでお願いします。aster@ouj.ac.jp

#### 研究室の特徴

##### （不利な点）

- ・遠隔教育のための大学である放送大学の研究室ですので、普段から大学に学生が集まることは考えられていません。そのため、学生が作業するためのスペースはそう広くありません。
- ・学生は日本全国に散らばっています。放送大学の生態分野の教員は私だけですので、鳥の研究をする学生だけでなく、植物・植生、水生生物、クモ、細胞性粘菌、森林管理、など、学生の研究テーマは多岐にわたります。こういう状況ですので、調査の時にほかの学生の手を借りる、学生が何人か集まって合同で調査や勉強会をする、といった、普通の研究室らしい活動は、かなり難しいです。また、研究指導も手薄になりやすいです。
- ・放送大学の大学院の授業科目は少なく、修了のために生物系以外の科目もいくつか履修する必要があります。詳しくは <http://www.ouj.ac.jp/hp/kamoku/H28/daigakuin/B/index.html>

##### （有利な点）

- ・仕事を持ったかたが仕事を続けながら大学院で学ぶ、ということを最初から想定して作られた大学ですので、そのようなかたがたには都合が良いと思います。
- ・遠隔教育の大学ですので、日本国内ならどこにお住まいでも受け入れられます。ただ、遠方にお住まいのかたの場合、交通費等でご負担をかけてしまう場合があります。
- ・必要に応じて（+予算の範囲で）、「研究指導担当教員」を外部の研究者（大学の教授、准教授、あるいはそれに相当する国等の研究機関の研究者）にお願いすることができます。関係者全て（学生本人、先方の研究者、その所属機関、放送大学、加藤）の了承が得られるなら、という条件つきですが、普段は「研究指導担当教員」を引き受けてくださった研究者の元で研究を行い、必要に応じて本学の研究室で作業したり指導を受けたりする、ということも可能です。

#### 研究テーマ

- ・生態学・生物学に関する幅広いテーマで研究を行えますが、教員が指導できる分野は限られます。加藤の研究については、CiNii や Google Scholar で検索してみてください。最近では都市における鳥類について主に研究し、三宅島の鳥類について時間があるときに調査をしています。このほか、東京学芸大学の真山先生らとともに、河川の付着珪藻を利用した環境学習教材 <http://www.u-gakugei.ac.jp/~diatom/japan/simriver/> の開発も手がけています。